

注 意 報

茨城県病害虫防除所

令和7年9月30日

病害虫発生予察注意報 第2号

シロイチモジヨトウの発生が多くなっています！

圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行い、被害拡大を防ぎましょう。

[発表の内容]

作物名：野菜類、豆類、花き類

病害虫名：シロイチモジヨトウ

発生量：多い

発生地域：県下全域

[発表の根拠]

- ① 直近1か月間（8月26日～9月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、つくば市で平年より多く、笠間市で平年よりやや多い～多い(図)。
- ② 9月下旬現在、秋冬ネギ、秋冬ハクサイ、大豆での被害を確認している。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

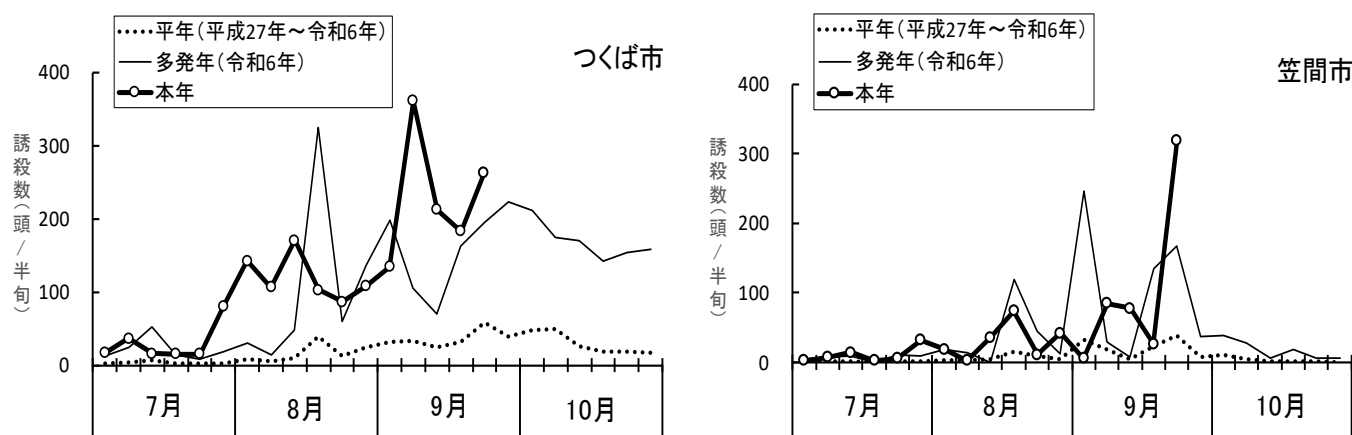


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数

[本種の生態と特徴]

ネギ、キャベツ、ハクサイ、レタス等の野菜類やダイズ等の豆類、花き類を加害する広食性の害虫である。

卵は数十粒の卵塊で産卵され、孵化した幼虫はしばらく集団で生息した後(写真1)、ネギでは、葉身内に食入し、中から表皮を残して葉肉を食害する(写真2)。ダイズ、ハクサイ、レタス等では、葉を食害する。発育すると分散し、単独で食害する(写真3)。

若齢幼虫は黄緑色であるが、中齢幼虫以降の体色は変異に富み、淡緑色から黒褐色まで様々である。老齢幼虫の体長は約30mmで、胴部側面に明瞭な白線があることが本種の特徴である。成虫の体長は10～15mm、開張は25～30mmであり、前翅中央部に円形の斑紋がある(写真4)。

【防除対策】

- ① 中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低くなり、さらに幼虫が作物内に食入するとその後の防除が困難になる。そのため、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 令和4年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。

(令和5年2月24日発表 病害虫発生予報3月号 p3-4 防除所レポート参照)

表 シロイチモジヨトウに適用のある主な薬剤（令和7年9月18日現在）

薬剤名※ ¹	作物名					IRAC※ ² コード
	ネギ	キャベツ	ハクサイ	レタス	ダイズ	
トレボン乳剤	○					3A
ディアナSC	○					5
アニキ乳剤	○	○		○		6
コテツフロアブル	○	○				13
トルネードエースDF	○	○	○	○		22A
ベネビアOD	○	○	○	○		28
ヨーバルフロアブル	○	○	○			
グレーシア乳剤	○	○	○	○		30
プロフレアSC	○	○	○	○	○	
プレオフロアブル	○	○		○	○	UN

○：当該作物に適用あり。

※¹ 使用方法「散布」の登録薬剤

※² 殺虫剤耐性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

【注意事項】

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の適用作物、使用方法、注意事項等を必ず確認する。



写真1
卵塊から孵化した幼虫



写真2
ネギの内部を食害する若齢幼虫



写真3 ネギを加害する老齢幼虫



写真4 成虫